

1時間で巡る粕壁宿ミニコース!

●粕壁宿の名残を歩く!

5月19日(日)、午後2時~3時で地下神殿(首都圏外郭放水路)を見学し、バスで春日部駅に戻り、4時15分~5時15分の1時間「春日部観光ボランティアの会」の方々のご案内で粕壁宿を巡りました。

◇ ◇

■加藤楸邸旧宅跡

俳人の加藤楸邸(1905~1993年)が俳句をはじめた旧制粕壁中学校(現在の県立春日部高校)教員時代(1929~1937年)に住んだ住居があった場所。粕壁時代の句は句集『寒雷』に「古利根抄」として収められています。



■春日部市郷土資料館



郷土春日部の歴史と文化を紹介する春日部市郷土資料館で粕壁宿の模型を見ながら、實松館長から説明を伺いました。「粕壁宿は江戸幕府の成立とともに江戸・日本橋から数えて4番目の宿場として元和2(1616)年に開設されました。それ以前は、鎌倉や小田原に向かって進む鎌倉街道中道(なかつみち)が岩槻を通っていたので、この辺りからは岩槻へ向かう道が主体でした。最初は奥州へ向かう奥州街道として整備させたのですが、徳川家康を日光に祀ってからは日光街道という名前が有名になっています。江戸時代は『粕壁宿』と呼ばれていましたが、南北朝時代に新田義貞の家臣春日部氏が領地としたことから『春日部』の地名標記もあります。江戸から歩いて9里約35キロで、1泊目の宿場としての賑わいを本陣、脇本陣、旅籠問屋場などを模型で見いただくことができます。」

■配電ボックスに見る旧町名

かすかべ大通り(昔の日光街道)は幅約9m(5間)で、現在の道路は歩道を拡幅して15mあります。電線類の地中化が図られており、11基の配電ボックスには、旧町名が描かれています。



■下喜蔵河岸のイヌグス

鎌倉時代から江戸時代にかけては舟運が盛んで、古利根川沿いには上喜蔵河岸(かみきぞうがし、新町橋付近)と下喜蔵河岸(しもきぞうがし)という河岸があり、下喜蔵河岸の近くに個人所有の碇神社

と樹齢650年といわれるイヌグス(学名:タブノキ)があります。土地やお社は名主であった多田家の所有です。

■道標



かすかべ大通りの店蔵・田村家の前には道標(みちしるべ)があります。江戸時代に建立されたもので、「東江戸」「西南いハつき」とあり、裏側に「北日光」と刻まれています。当時の位置はここではありません。

■蔵造りの商家

最後は古利根公園橋たもとの蔵造りの商家です。現在でも明治、大正、昭和初期に建てられた蔵が保存・活用されています。(田村荒物店)



■懇親会

午後5時半からは、中華「けいらく」での懇親会です。14名と1家族が楽しく懇親を深めました。



◇説田さん〔久喜麗和会11回〕:春日部市には小学2年生まで住んでいたもので、今日の宿場めぐりでは懐かしい場所を巡りました。

◇白根さん〔川口市9回〕:今月81歳を迎えましたが、川越に続いて2回目の出席を楽しみました。

◇杉崎さん〔西部浦高会16回〕:入間市の標高180mで鹿が出る所に住んでいるので、春日部に来て埼玉県の東西の違いや広さを痛感しました。

◇新藤さん〔浦和麗和会20回〕:先日、牛島の藤を見て、今回は地下神殿と宿場を楽しみました。

◇福田さん〔浦和麗和会24回〕:地元や埼玉県立歴史と民俗博物館などでボランティアガイドをやっており、江戸川開削の指揮者・小島庄右衛門正重の地にやってくることができ参考になりました。

◇渋谷さんご夫妻、松下さん〔さいたま市16回〕:一度来たいと思っていた地下神殿を楽しむことができました。(地下神殿終了後帰路に)

◇春日部地区浦高会〔11名+1家族〕:皆様に感謝